

ボート転覆 豊橋市に要望書

「娘の死 無駄にせぬように」

父親の西野さん市の管理責任問う

記 西野 友章

「何の過失もない娘が、なぜ死ななくてはいけなかったのか。どうしてもその理由が知りたい」。浜松市の浜名湖で6月に起きたカッターボート転覆事故で、豊橋市章南中1年西野花菜（当時12）を失った父親の友章さんは12日、豊橋市役所で要望書を手渡した後に行われた記者会見で沈痛な表情を見せ、市に事故の真相究明を求めた思いを話した。笑顔で手を振り、楽しみにしていた浜名湖での自然体験学習へ向かった花菜さん。

あの日から約4カ月。友章さんは大切な一人娘を失い「体験学習に行かなければ」「章南中に娘を通わさなければ」と後悔の念にさいなまれ続けてきた。

その間、章南中や市の対応について「事故の真相がわかる説明を受けたことは一度もなかった」。事故の発生時、学校からの連絡も遅れた。テレビを見て発生を知り、学校へ問い合わせをしても必要な安否情報は最後まで伝わらなかった。

市などへの不信感は募るばかり。友章さんは「学校や教育委員会の事故を隠へいしようとする意図が見える。市の管理責任をあらためて問いたい」と行動を起こした。

記者会見で、友章さんは「こんまま事故が忘れられ、市の再発防止策が取られないならば、花菜の死が無駄になってしまふ。事故の真相と責任の所在を追及することが、親として亡き娘にできる、せめてもの供養です」と訴えた。

【2010年10月13日中日新聞参照】



浜名湖事故 遺族会見

豊橋市教委 腰重く

父「何も知らされず」

記 西野 友章

浜名湖で6月に起きたボート転覆事故で、豊橋市立章南中1年の長女、西野花菜さん（当時12）を亡くした父親の友章さんが12日午後、初めて記者会見した。友章さんは「事故の原因も真相も、何も知らされていない」と豊橋市教育委員会の対応を批判した。

友章さんの記者会見は、佐原光一・豊橋市長と面会して要望書を出した後に開かれ、弁護士二人も同席した。花菜さんの写真を手にしながら会見した友章さんは「事故現場の」静岡からは誠実さが伝わってくるが、豊橋は黙っていたら何もしない」と話した。

両親が市長に要望書を提出した背景には、市教委の対応の不信感がある。「事故原因の究明があつてこそその再発防止なのに、豊橋市教委からはその姿勢がまったく見えない」という。

静岡県警は9月30日、ボート事故の調査報告書をまとめ、県議会に提出した。A4サイズで38ページにわたる報告書は、風向や風速、船の位置など地図や写真を用いて、転覆までの流れや救助態勢を時系列で詳細に検証した。その上で事故発生の原因や問題点、改善策について8ページを割き、西野さんに

も渡した。

同県教委幹部は県議会に提出する前に西野さん宅を訪問し、報告書の原案を渡して意見を求めた。「ボートの転覆について想定されていなかった」点について、友章さんから指摘されたのを受けて「転覆も想定し、この場合の救助方法や対策を検討する」とする一文も盛り込んだ。県教委社会教育課の担当者は「遺族から了解を得るのは当然」とする。

これに対し、豊橋市教委が事故そのものについて作成したA3サイズで6ページだけだ。事故の概要を時系列に並べて、7月下旬に市議会に提出した。事故の原因については、「複数の市議から委員会内での指摘に対して名言した」（白井宏治・学校教育課長）というだけで、文書化していない。また、市議会に出した時系列の文書についても、市教委は西野さん側に渡しておらず、友章さんは知人を通じて入手した。

朝日新聞の取材に対し、市教委は学校に配布するマニュアルを「作成している最中」としており、①下見の際の注意点②実施前の判断基準③実施直前での判断④事故後の連絡体制の4項目を柱にすると説明。しかし、このマニュアル案では「被災状況の把握と人員確認」と書いているだけで、事故の際の学校や市教委の対応の問題点を明文化していない。理由について白井課長は「結果として（問題点を明記した）文書を作成してはなかった。課員が事故の問題点を把握してマニュアルをつくっている」としている。友章さんは「このままでは、教育現場に事故の教訓が伝わらず風化してしまう。花菜は豊橋の子なのに」と肩を落とした。

【2010年10月13日朝日新聞参照】



豊橋章南中ボート転覆事故

もつと真剣に原因究明を

西野さんの父が市長に要望

記 西野 友章

「娘の死を無駄にしないで」。6月18日に浜名湖で起きた豊橋市章南中のカッターボートが転覆事故から4カ月。同時事故で長女の西野花菜さん（当時12）を失った会社員西野友章さんが12日、「もつと真剣に事故原因を究明してほしい」と、豊橋市役所に佐原光一市長を訪ね要望書を手渡した。

西野さんは午後4時半すぎ、小林修弁護士らと一緒に豊橋市役所へ。「豊橋市立章南中学校自然体験学習におけるボート転覆事故の真相を求める」とした要望書を佐原市長に手渡した。

要望書はA4用紙1枚にまとめられ、「（豊橋市からは）4カ月近かった今、事故原因も花菜が亡くなった真相も知らされていない。しかも、いまだに具体的な対策が講じられていない」として、①事故および死亡原因の究明②再発防止のための具体的な安全策の確立を求めた。

これに対し、佐原市長は行政に捜査権限がないことや、学校行事は市教委の所轄であることを説明し、「市としては静岡県警の捜査を見守っている段階。今後、市教委と連携し

て再発防止に取り組んでいく」と述べるにとどまった。

西野さんは要望書を手渡した後に記者会見を行い、そのなかで悪天候のなかで訓練を強行した静岡県立三ヶ日青年の家、および同施設指定管理者の小学館（東京）は「事故原因の究明および再発防止に真剣に取り組んでいる」と評価した。

しかし、豊橋市および市教委については「教育長が毎月、娘の月命日（18日）に来てくれるが、娘の死を教訓にするという『命の日』の制定も案にとどまっている」ほか、「再発防止策は市と相談して」などの言い方に、積極的な取り組み姿勢が感じられないと不信感を表した。

西野さんは今後、支援してくれる市民団体とはかりながら真相究明を求める署名を集めたいとし、「12月市議会に間に合うよう、11月末までに集めたい」と述べた。また、現段階は考えていないが、市の対応によっては民事訴訟に踏み切る可能性もあるとした。

【2010年10月13日東愛知新聞参照】

